

小平市第二次下水道プランの進捗状況報告(令和4年度実績)の概要について

1 計画の概要

(1) 計画の位置づけ

「小平市第二次下水道プラン」は、小平市の下水道における基本方針や施策の方向性について示すもので、今後、下水道事業を展開する上での基本となるものです。

本計画では、国が示す『新下水道ビジョン』や、ビジョンの実現加速のために取りまとめられた『新下水道ビジョン加速戦略』の施策の方向性を踏まえつつ、『小平市第四次長期総合計画』のめざす将来像“つながり、共に創るまち こだいら”を実現すべく、小平市の下水道が抱える課題やその他の各種関連計画に基づき、下水道が目指すべき方向と取組方針等について示すものです。

(2) 計画期間

令和3年度から令和12年度までの10年間

(前期計画) 令和3年度から令和7年度まで

(後期計画) 令和8年度から令和12年度まで

(3) 基本理念

小平市第二次下水道プランでは、「小平市下水道プラン」(平成22年度策定)で掲げられた基本理念『快適な生活環境を支える下水道』を継承しつつ、これまでの施策の取組状況や新たに見えてきた課題等を踏まえた下水道事業を推進していくこととします。

【基本理念】

快適な生活環境を支える下水道

- 市民が長く住みたいまちであり続けるために、質の高い下水道サービスを提供していきます。
- 次世代が下水道を安心して使い続けられるよう、下水道を守り、育て、そして引き継いでいきます。
- 下水道システムのもつポテンシャルを活かし、持続可能な循環型社会の実現に貢献していきます。
- 市民や事業者と連携して、下水道が将来あるべき姿の実現を目指します。

(4) 施策の体系

4つの基本方針に対し、10の施策を定め、21の取組みを実施しています。



図中の★については、全施策の中での重点施策、☆については、気候変動適応策に係る取組を示します。

2 第二次下水道プランの進捗状況及び成果のまとめ（令和4年度末時点）

(1) 令和4年度の進捗状況

4つの基本方針に基づく、各施策に対する取組みの目標数値等について、令和4年度の実績や取組内容等を整理しました。

① 重点施策（目標数値は前期計画期間内を設定）

施策Ⅱ-1 浸水対策（重点施策） (1)未整備地区における雨水管きよ整備	
目 標	浸水シミュレーション ^{※1} により浸水リスクを有する地区への整備
目標数値等	対策地区数：7 地区 〔雨水管きよ整備率 ^{※2} ：24.2 %〕
令和4年度実績数値等 単年度・累計	対策済地区数：1 地区 ・ <u>2</u> 地区 〔雨水管きよ整備率：0.3 % ・ <u>22.7</u> %〕
取組内容	令和4年度は2地区において工事を実施（うち、1地区は対策済み）

※1 浸水シミュレーション：コンピューター上で対象区域の地形や施設等の現状を再現し、その中で様々な降雨条件や下水道の施設整備状況（現況、計画）を考慮した上で、浸水被害の状況（浸水エリア、浸水深等）を予測するもの

※2 雨水管きよ整備率（%）＝雨水管きよ整備済み区域面積／雨水管きよ整備対象区域面積（分流式654.6ha）×100
令和2年度末の雨水管きよ整備率：21.8 %

施策Ⅱ-1 浸水対策（重点施策） (2)雨水貯留・浸透施設の設定促進	
目 標	浸水シミュレーションにより浸水リスクを有する地区への整備
目標数値等	対策地区数：3 地区
令和4年度実績数値等 単年度・累計	対策済地区数：0 地区 ・ <u>0</u> 地区 〔処理量 ^{※1} ：0 m ³ ・ <u>0</u> m ³ 〕
取組内容	工事の実績はなし ※令和4年度は3地区において設計を実施

※1 処理量（m³）＝浸透量（m³/hr）＋貯留量（V） （浸透量（m³/hr）：1時間あたりの地中にしみ込む水の量）

施策Ⅱ-2 地震対策（重点施策） (1)重要な管きよの耐震化	
目 標	重要な管きよの耐震化
目標数値等	中大口径管路の耐震化：0.6 km 〔重要な管きよの耐震化率 ^{※1} ：98.6 %〕
令和4年度実績数値等 単年度・累計	中大口径管路の耐震化：0.4 km ・ <u>0.4</u> km 〔重要な管きよの耐震化率：0.3 % ・ <u>98.4</u> % ^{※1} 〕
取組内容	令和4年度は学園幹線（その1）において耐震化工事（更生工法）を実施 ※工事内容 耐震化延長：φ1930×2480mm、φ1960×2480mm L=372.8m φ：馬蹄渠（断面が馬の蹄鉄の形をしている管きよ）

※1 令和2年度末における耐震化率＝98.1%

重要な管きよの耐震化率（%）＝耐震化済み延長／耐震化対象路線延長（119km）×100

（重要な管きよの耐震化率は、令和元年度末時点の対象延長119kmを基準に算定した場合）

令和7年度末 117.3km/119km×100＝98.6%

施策Ⅱ-3 施設の老朽化対策（重点施策） (1)計画的な点検・調査の実施	
目 標	第2・3期区域内の点検・調査の実施
目標数値等	点検・調査延長：81.9 km 〔点検・調査達成率 ^{※1} ：40.7 %〕
令和4年度実績数値等 単年度・累計	点検・調査延長：17.6 km ・ <u>35.0 km</u> ※仲町処理分区 〔点検・調査達成率：3.3 % ・ <u>31.9 %</u> ^{※2} 〕

- ※1 点検・調査達成率（%）＝点検・調査済み延長／点検・調査対象延長（533km^{※3}）×100
 令和2年度末：135.2km／533km×100＝25.4 % → 令和7年度末：217.1km／533km×100＝40.7 %
 ※2 令和4年度末：（135.2km＋35.0km）／533km×100＝31.9 %
 ※3 令和元年度末時点の点検・調査対象延長

施策Ⅱ-3 施設の老朽化対策（重点施策） (2)計画的な改築・修繕の実施	
目 標	第1期区域内の改築・修繕工事の実施
目標数値等	改築・修繕達成率 ^{※1} ：80 %
令和4年度実績数値等 単年度・累計	改築・修繕達成率：38.6 % ・ <u>43.6 %</u> ※学園処理分区ほか 対策延長：7,770.6 m ・ <u>8,781.1 m</u> (内訳) 改築スパン延長：966.9 m ・ <u>1,977.4 m</u> 修繕スパン延長：6,803.7 m ・ <u>6,803.7 m</u>

- ※1 改築・修繕達成率（%）
 ＝改築・修繕工事実施済み路線（スパン^{※2}）/対策区域における改築・修繕工事選定路線（スパン（20,139.8m^{※3}））×100
 ※2 スパン：マンホール間を1スパンとする。
 ※3 調査・点検の結果による、第1期区域内の改築・修繕工事が必要な延長

② 経営戦略

令和4年度は、3つの経営指標（経費回収率、流動比率、債務償還年数）と留保資金残高の目標をすべて達成していることや、小平市第二次下水道プラン策定時に行ったシミュレーションによる将来推計値よりもすべて望ましい状況となっていることから、良好な経営状況にあります。

令和4年度の当年度純利益（税抜）は、4.3億円となり、令和3年度の4.8億円と比較し、0.5億円の減となりました。これは、下水道使用料や長期前受金戻入などの収入が減となったことに加え、老朽化対策費用が大幅に増となったことから、当年度純利益が減となったものです。

今後は、人口減少による下水道使用料の減や、施設の老朽化による更新投資の増により、指標が悪化していくことが見込まれます。そのため、3つの経営指標と留保資金残高を主な判断材料とし、下水道使用料の改定や企業債発行の抑制、基金の活用方法を検討していく必要があります。

(2) 進捗状況報告のまとめ

令和4年度においては、4つの基本方針に基づいた各施策に対する取組みが進展しており、実績についても成果が認められました。

重点施策では、浸水対策である「未整備地区における雨水管きよ整備」について、1地区を加え累計2地区が対策済みとなったほか、地震対策や老朽化対策においても達成率等が上昇するなど、目標に向けた取組みが適切に実施されております。

今後の下水道事業では、気候変動や老朽化等の課題を抱える一方、限られた財源の中で最大限に事業効果が発揮されるよう安定した経営を行っていくことが求められています。そのような厳しい事業環境においても、快適な生活環境を実現するため、引き続き、着実かつ効率的に各施策の取組みを実施し下水道事業を推進していきます。